

市民キュレーター

による

12/3

【火】から

12/14

【土】まで

大阪府立江之子島
文化芸術創造センター
(enoco) 展示室 1 にて

ミニ二展覧会

アートや美術館に関心を持つ6名の一般の方々が
“市民キュレーター”となって、大阪府20世紀美術コレクションによる
ミニ二展覧会を行います。

「どんな展覧会にしよう?」「どの作品を展示しよう?」——
さまざまな試行錯誤の結果つくりあげられた6つの展覧会は、
いずれも普段の美術展とはちょっと違う、新鮮なアイデアに溢れています。

“アートのいろいろな楽しみ方”に触れていただければ幸いです。
ぜひご覧ください。

- 【会期】 2013年12月3日(火)～14日(土) 月曜休
- 【開館時間】 午前11時～午後7時(ただし日曜は午後4時まで)
- 【展覧会場】 大阪府立江之子島文化芸術創造センター(enoco) 4F 展示室1



大阪市西区江之子島2丁目
1番34号

大阪市営地下鉄千日前線・
中央線「阿波座駅」下車
8番出口から西へ約150m

enokojima creates osaka
enoco

<http://enokojima-art.jp/>

【入場料】 無料

【ギャラリートーク】 12月7日(土) 午後2時～3時

市民キュレーターが企画内容や出品作品について語るギャラリートークを
会場内で実施します(参加無料、事前申し込み不要)

【主催】 大阪新美術館建設準備室、大阪府立江之子島文化芸術創造センター

【お問合せ】 大阪府立江之子島文化芸術創造センター 電話 06-6441-8050



市民キュレーターとは?

美術館における展覧会は、専門的知識や資格を持った学芸員が企画・実施しています。一方で、美術館の活動への理解を深めてもらうために、普段は「受け手」である一般の方々が、学芸員の指導を受けながら展覧会の企画や実施という「作り手」の仕事を経験する試みが、各地で行われています。こうした試みに参加する人々が“市民キュレーター”と呼ばれます。本展では、公募による6名の方が市民キュレーターを務めます。



写真はいずれも昨年に開催した時のものです

市民キュレーターによるミニ展覧会



市民キュレーター
池口登美子

展覧会タイトル
解放
～新しい自分へ～

(作品写真)
三尾公三《Perspective in space (E)》
1969年

大阪府20世紀美術コレクションを通して、私自身の感じたイメージで「私」を表現したいと思いました。世間や周りからのしがらみ(いろんな立場、年齢、人間関係など)、自分自身で決めつけていたしがらみ(女性、娘、妻、母としての思い込みの理想像)から「私」が解放され、ひとりの人間として自由に考え、発言できる喜びをお伝えできればと思います。

〔プロフィール〕小さな頃から、美術館に行くワクワクしました。最近は美術館だけでなく、様々な場所でアートに触れる機会が多くなり、もっといろんな作品を見たいと思ったり、お気に入りのアーティストに出会ったり。アートは出会いの場、ツールでもあるのです。そして、今までとは違う自分の好みや感覚を発見することもあります。今回の展覧会で自分がどんな作品を選ぶのか、選んだ作品をご覧になった方がどんな感想を持つのか、楽しみです。



市民キュレーター
神尾知宏

展覧会タイトル
ある日
どこかで

(作品写真)
安東菜々《LANDSCAPE 1》1975年

「私はここを知っている」と言う時、私たちは自身の記憶から該当する事柄を思い起こしています。しかし、実際は記憶の中と異なっているなど、しばし両者の間には「ズレ」があります。今回は、「見る人の記憶を呼び覚ます」と同時に、「その記憶のあいまいさを気づかせられる」と思われる作品を選びました。「私はここを知っている、しかし実際どこか分からない」不確かであいまいな記憶の旅をしてみたいと思います。

〔プロフィール〕10代を広島で過ごしたのち東京で生活をし、4月から大阪へ越してきました。今回ワークショップに参加したのは、自分が住んでいる街に魅力的なアート作品が数多くあることを展覧会を通じて発信したいからです。同時に、記憶を蓄積する街＝広島でも、日々情報をアップデートする街＝東京でもない、大阪の魅力を私自身深めたいからでもあります。展示室を出た後に街の見方が僅かでも変化し、充実したものになる展覧会にしたいです。



市民キュレーター
鳥越政宏

展覧会タイトル
顔・貌・かお
～コミュニケーションの原点～

(作品写真)
前田藤四郎《自画像》1979年

通信手段がいかに多様化しようと、コミュニケーションの原点は顔と顔を合わせて言葉を交わすこと。そこで本展では、ご覧頂く皆さまが、芸術家の「顔」に込めた様々なメッセージに思いを巡らせ、コミュニケーションの原点である「顔」の存在感や表情を読み取る面白さにあらためて気付いて頂けるよう考えました。そして、皆さまのFace to Faceによる円滑なコミュニケーションが少しでも増えられますことを願ってやみません。

〔プロフィール〕こんにちは、鳥越政宏です。大阪市西区で会社員をしています。暇を見つけては数多くの展覧会を覗きました。私に限らず美術好きにとって、府民の大切な美術財産を公開して楽しんでもらうという使命に参加協力でき、しかも自分の企画で展示できることは、「夢」ではないでしょうか。今回、市民キュレーターワークショップに参加させて頂き、少しだけスパイスを加え、美術へのワクワクを感じるような企画ができればと思っています。



市民キュレーター
原 美希

展覧会タイトル
癒し空間
～アートを楽しむ～

(作品写真)
津田洋甫《春色の川面》1988年

これまで作品の持つ雰囲気や自然の風景、色彩に癒されてきました。そんなアートの心地よさを楽しんでいただけだと、癒しを感じるような作品を集め、そんな空間を作ってみました。詩情編(版画)では作品からほのぼののできるものを、自然編(写真)では水面のゆらぎをテーマに選び、色彩編(絵画)では色鮮やかな作品で構成しました。それぞれの作品の心地よさを少しでも感じていただければ、うれしいです。

〔プロフィール〕学生時代、美学科で西洋美術を専攻。アンリ・ルソーの世界に魅かれる。これまでにいろいろなアート展を見てきました。作品を目の前にした時の「おっ!」と思わせられる、心地いいと感じる感覚をいつも楽しんでます。アートのそういう面白さが好きです。アートに携わりたかったという思いが今でもどこかあって、このワークショップに思いきって応募しました。心地いい展覧会を目指して、楽しみながら頑張りたいと思います。



市民キュレーター
堀 寿恵

展覧会タイトル
ツキとスキ

(作品写真)
木村嘉子《丸の作品(3)》1965年

月と地球。この広い宇宙のなかで、まるでカップルのように悠久の時を寄り添って存在してきました。気づけばずっと隣にいる。そんな愛のかたちも素敵ではないでしょうか。展覧会は、木村嘉子の《丸の作品(3)》から始まり、2つが惹かれあうことで一対の関係になり、最後に井田照一の《MARRIAGE》で結びます。月を通して、愛について再考していただければ幸いです。

〔プロフィール〕大阪府在住の社会人。このインターネットを通じてどこでも行ける、何でも見られる時代だからこそ、わたしはライブ感を大切にしています。自分で行って、見て、感じる。できれば触りたい。そして展覧会を自分で作れるというのであれば、作ってみたい。そう思ってこのワークショップに応募しました。本物の作品が持つ力はすごいです。それをみなさんが感じられる空間を作りたいと思っています。



市民キュレーター
四谷明人

展覧会タイトル
アートが
生まれる瞬間
～探す・見つける・包まれる～

(作品写真)
清宮眞文《夕日と猫》1979年

アートはあなた無しでは成立しません。作品を介して生まれる人の感動体験こそがアートだからです。作品という「記号」を心へ届け、心の中をじっと見つめてみる。そのための工夫として今回2つのアプローチを試みます。人のほうから作品に近づく能動的な鑑賞法と作品に包まれる受動的な鑑賞法。攻守が交代する双方向の鑑賞体験により、あなたの中に果たしてアートは誕生するのでしょうか?動物の小型版画と大型の抽象作品とで表現していきます。

〔プロフィール〕つい4ヶ月前まで全くアートに関心の無かった一般市民代表として本ワークショップに参加します。アートとの出会いにより私の生活は一変しました。その新鮮な記憶が私の強みです。昨今、街には至る所にアートが溢れ、アートに触れる機会には恵まれた時代の中で私たちは生きています。目には見えても気に止まらないアートという「石ころ」が、かけがえのない「宝石」に変わる瞬間について皆さんと共に考えていきたいと思います。

